

第11回水稲病害虫発生予察結果（伊豆市内）



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種（コシヒカリ・ひとめぼれ等）

【生育状況と栽培管理】

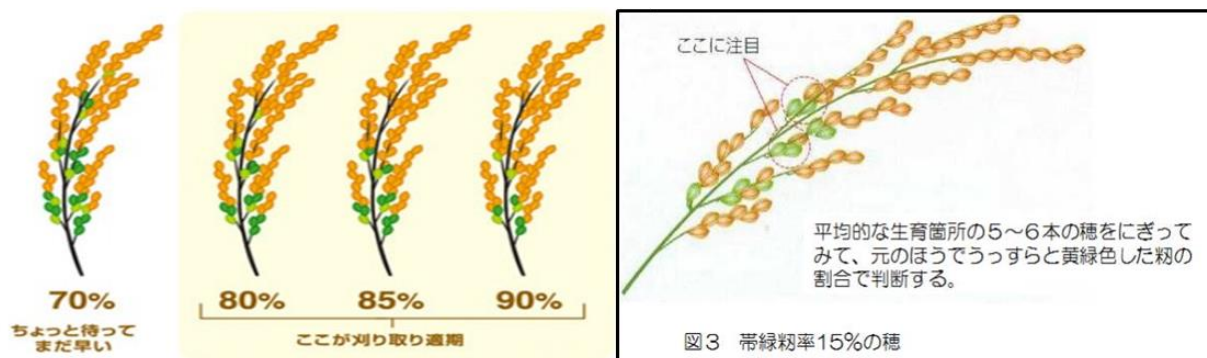
各地区では籾の登熟が進んでおり、巡回を行っている田んぼでは積算温度を確認すると1,000℃を越える時期となっておりますが、積算温度はあくまで目安となりますので、ご自身の田んぼの収穫日については実際の籾の状況を確認していただき刈取り時期の決定を行って下さい。

刈取りが早すぎると未熟米が多くなり、遅くなると未熟米は減り玄米量は増えますが着色米や胴割米の割合が多くなる原因となり、どちらも米の品質検査では等級を落とす原因となります。

【早生品種の出穂後の積算温度について】

コシヒカリの場合、出穂から数えた積算温度が1,000℃に達した頃が刈取適期と言われておりますが、気象条件により前後することがありますので、籾の黄化具合を見て刈取り時期の判断を行ってください。（籾の80%～90%程度が黄化し、穂の元に緑色の籾が一部残っている頃）

（刈取り時期の目安）



各地区の早生品種の出穂が確認出来てからの積算温度は以下の通りとなります。

（8月22日時点）

地区	下白岩	原保	門野原	大平	北又
積算温度（℃）	1007	980	996	1018	1018
出穂確認日	7月18日（出穂より36日目）				

積算温度と出穂日は各地区に定めた巡回圃場のものです。

【病害虫の発生状況】

田んぼでウンカの発生が確認されています。発生量は少ないですがウンカが起こす被害として、ウンカの大量発生により多くの稲の汁液を吸い枯らしてしまう『坪枯れ』という被害が発生します。『坪枯れ』が発生すると収穫量減少を招く恐れがありますので、早生品種でも刈取り予定が遅い方はウンカの発生動向に注意してください。

5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

【生育状況と栽培管理】

出穂期～乳熟期となっております、この時期は籾が成長するためには水が必要となります。この時期に田んぼを干からびさせてしまうと玄米の成長に悪い影響が出ますので、水の管理に注意してください。

また粉剤を施用したカメムシ防除は、穂揃期と乳熟期の計2回がカメムシの防除のタイミングとなります。粉剤による防除については「第6回水稻病害虫発生予察結果」をご確認ください。

【病害虫の発生状況】

田んぼでウンカの発生が確認されています。発生量は少ないですがウンカが起こす被害として、ウンカの大量発生により多くの稲の汁液を吸い枯らしてしまう『坪枯れ』という被害が発生します。『坪枯れ』が発生すると収穫量減少を招く恐れがありますので、中・晩生品種については刈取りまでの期間が約1カ月程度あるため、ウンカの発生動向に注意してください。

**過去の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！**



作成日：令和5年8月22日
J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461